

開会挨拶（運営会議議長 佐藤文隆）

本日はご参集戴き感謝します。ご存知のように、ITERのサイトが決定し、日本には来なかったものの、日本は準ホスト国という重要な役割を担うことになりました。国際的あるいは国内政治的にも大決断をしたことになります。今まででは核融合フォーラムとしてもITER誘致のお願いをしてきたところですが、これからは目指している研究開発や物作りに携わる人の真価が問われる段階になったわけで、そのような状況において、核融合フォーラム自身も新たな役割を担うことになると考えます。文部科学省におかれても新しい仕組み作りが行われているようですが、核融合フォーラムが果たすべき今後の役割も固まってくるのではないかと思います。今日は忙しい中、近藤委員長にも来て戴き、国内における今後の核融合研究開発計画について、昨秋決められた推進方策についてご講演戴きます。フォーラムとしても新しい役割への転換期に入ったという認識を持っており、今後、重要な二つの役割を担うことになります。一つは国際協力です。国際協力をうたった科学計画は多々あります、ITER計画ほど規模が大きく、長期間にわたり、参加国も多いものはありません。これは、人類にとって一つの新しい試みであると言えます。そのようなものを立派にやり遂げることが様々な意味で重要で、積極的に支援していく必要があります。もう一つは、ITER計画は長期にわたる事業ですから、土気を保ち続けるのは難しいと思いますので、人材の確保や育成、そして教育が重要であるということです。また、社会が期待する状況を作ることも大事です。少しさばると「あれはどうなつた」と言われるぐらいになると良いと思います。国際的、長期的な面から、核融合フォーラムがますます重要な役割を担っていくことになることを期待します。